

取 組 一 覧

種 別	取組内容	事業実施主体	頁
タイラギ	平成30年度のタイラギの取組		P1
	①種苗生産・中間育成・移植	4県	P2
	②母貝保護	福岡県	P7
	③生息環境改善	佐賀県、長崎県	P11
	④凹凸覆砂効果実証	水産庁	P14
	⑤ナルトビエイ来遊調査	4県	P16
	⑥ナルトビエイ食害対策	4県	P21
	⑦浮遊幼生調査	4県	P26
アサリ	平成30年度のアサリの取組		P32
	①稚貝移植放流	福岡県、熊本県	P34
	②母貝場形成	長崎県、熊本県	P37
	③種苗放流	福岡県、熊本県	P40
	④稚貝中間育成	福岡県、熊本県	P43
	⑤網袋式増養殖	長崎県	P46
	⑥貧酸素対策調査	長崎県	P48
	⑦餌料環境改善	長崎県	P50
	⑧生息環境改善	福岡県、佐賀県、長崎県	P53
	⑨生息状況調査	福岡県、佐賀県	P58
	⑩資源量(生息量)調査	福岡県、佐賀県、熊本県	P61
	⑪ナルトビエイ来遊調査	4県	P65
	⑫ナルトビエイ食害対策	4県	P70
	⑬浮遊幼生調査	4県	P75
	⑭稚貝保護・育成(実証)	水産庁	P80
	⑮稚貝移植(実証)	水産庁	P82
	⑯母貝生息適地造成(実証)	水産庁	P87
	⑰カキ礁造成(実証)	水産庁	P90

種 別	取組内容	事業実施主体	頁
アゲマキ	平成30年度のアゲマキの取組		P92
	①種苗生産	佐賀県	P93
	②種苗放流	福岡県、佐賀県	P95
	③浮遊幼生調査	福岡県、佐賀県	P98
ガザミ	平成30年度のガザミの取組		P101
	①種苗生産	長崎県	P102
	②種苗放流	4県	P104
ウミタケ	平成30年度のウミタケの取組	佐賀県	P110
エ ツ	平成30年度のエツの取組	福岡県、佐賀県	P114

注:その他の各県重点魚種は未掲載

⑩資源量(生息量)調査

〔アサリ〕

〔目 的〕

○主要漁場におけるアサリの資源量（生息量）の把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資する取組効果評価のための基礎資料の収集

○調査結果を漁業者に提供し、保護区の設定など資源管理に活用

佐賀県

〔調査内容〕

アサリの推定資源量調査

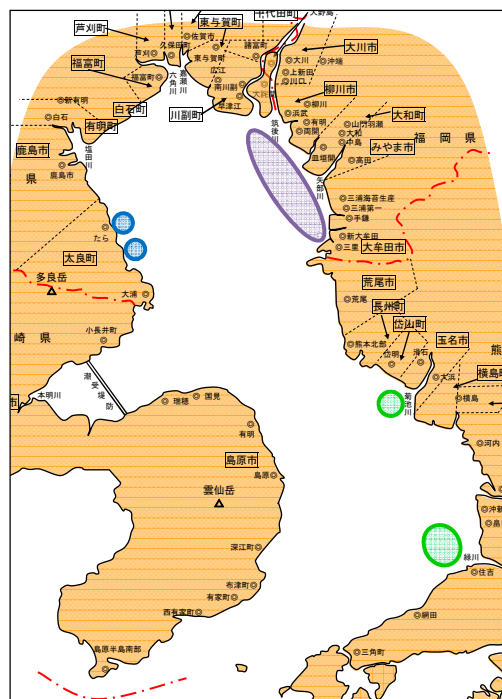
〔調査場所〕

太良町沖、糸岐川河口域

〔調査時期〕

1月

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

アサリの推定資源量を調査

〔調査場所〕

福岡県全域

〔調査時期〕

秋季：10月中旬（予定）

春季：3月中旬（予定）

長崎県

○該当なし

熊本県

〔調査内容〕

アサリの生息状況調査

〔調査場所〕

菊池川(40定点)、緑川(130定点)

〔調査時期〕

菊池川：7月、9月

緑川：6月、8月

【福岡⑩】 施策名:アサリの資源量調査

〔アサリ〕

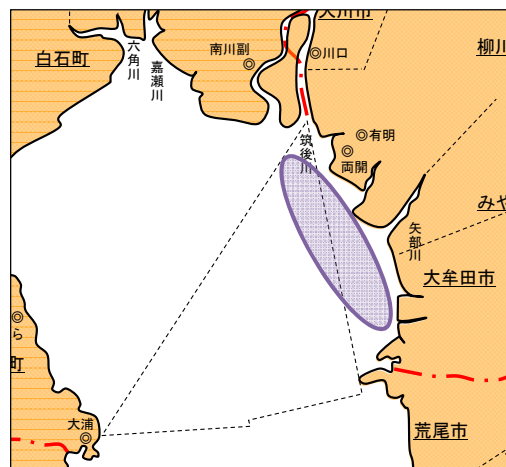
〔目的〕

○主要漁場におけるアサリ資源量（生息量）の把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資する取組効果評価のための基礎資料の収集

○調査結果を漁業者に提供し、保護区の設定など資源管理に活用



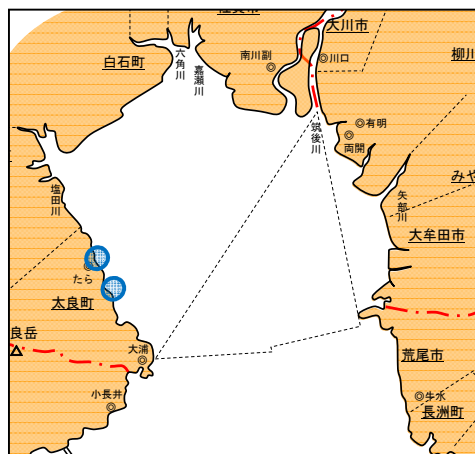
事業実施位置図

事業名	資源管理型漁業対策事業													
事業主体	福岡県(県単事業)													
実施年度	H30年度													
	H27年度～H29年度	H30年度												
〔調査内容〕 アサリの推定資源量調査 〔調査場所:福岡県全域 調査期間:秋季(10月)、春季(3月)〕	〔調査内容〕 同 左													
〔結果〕 アサリ推定資源量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>10月</th><th>3月</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td><td>1,473t</td><td>1,297t</td></tr> <tr> <td>H28</td><td>3,232t</td><td>5,538t</td></tr> <tr> <td>H29</td><td>10,540t</td><td>11,844t</td></tr> </tbody> </table>		年度	10月	3月	H27	1,473t	1,297t	H28	3,232t	5,538t	H29	10,540t	11,844t
年度	10月	3月												
H27	1,473t	1,297t												
H28	3,232t	5,538t												
H29	10,540t	11,844t												

〔アサリ〕

○主要漁場におけるアサリ資源量（生息量）の把握

- アサリの資源回復に資する取組効果評価のための基礎資料の収集
- 調査結果を漁業者に提供し、保護区の設定など資源管理に活用



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	佐賀県(九州農政局より受託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
		〔調査内容〕 アサリの推定資源量調査 〔調査場所:太良町沖、糸岐川河口域 調査期間:平成31年1月〕

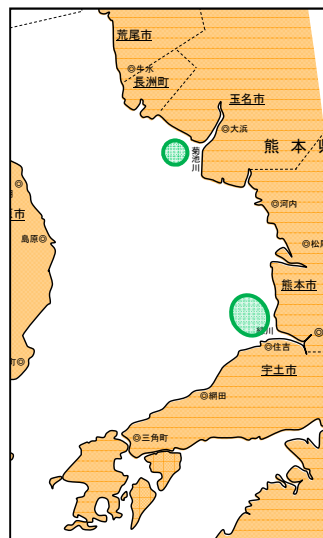
〔目 的〕

○主要漁場におけるアサリ資源量（生息量）の把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資する取組効果評価のための基礎資料の収集

○調査結果を漁業者に提供し、保護区の設定など資源管理に活用



事業実施位置図



〔生息量調査〕

事業名	二枚貝資源増殖対策事業																				
事業主体	熊本県(県単事業)																				
実施年度	H30年度																				
	H27年度～H29年度	H30年度																			
〔調査内容〕 アサリの生息状況調査 〔調査場所:菊池川(40地点)、緑川(130地点) 調査期間:2回/年〕	〔調査内容〕 同 左																				
〔結果〕 菊池川河口域	〔調査状況〕 菊池川河口域																				
<table><tr><td></td><td>7月</td><td>9月</td></tr><tr><td>H27年度</td><td>—</td><td>4,655個/㎡</td></tr><tr><td>H28年度</td><td>2,485個/㎡</td><td>1,647個/㎡</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>4,179個/㎡</td><td>2,487個/㎡</td></tr></table>		7月	9月	H27年度	—	4,655個/㎡	H28年度	2,485個/㎡	1,647個/㎡	H29年度	4,179個/㎡	2,487個/㎡	<table><tr><td></td><td>7月</td><td>9月</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>1,139個/㎡</td><td>分析中</td></tr></table>				7月	9月	H29年度	1,139個/㎡	分析中
	7月	9月																			
H27年度	—	4,655個/㎡																			
H28年度	2,485個/㎡	1,647個/㎡																			
H29年度	4,179個/㎡	2,487個/㎡																			
	7月	9月																			
H29年度	1,139個/㎡	分析中																			
緑川河口域	緑川河口域																				
<table><tr><td></td><td>6月</td><td>8月</td></tr><tr><td>H27年度</td><td>187個/㎡</td><td>162個/㎡</td></tr><tr><td>H28年度</td><td>230個/㎡</td><td>237個/㎡</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>153個/㎡</td><td>126個/㎡</td></tr></table>		6月	8月	H27年度	187個/㎡	162個/㎡	H28年度	230個/㎡	237個/㎡	H29年度	153個/㎡	126個/㎡	<table><tr><td></td><td>6月</td><td>8月</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>328個/㎡</td><td>分析中</td></tr></table>				6月	8月	H29年度	328個/㎡	分析中
	6月	8月																			
H27年度	187個/㎡	162個/㎡																			
H28年度	230個/㎡	237個/㎡																			
H29年度	153個/㎡	126個/㎡																			
	6月	8月																			
H29年度	328個/㎡	分析中																			

⑪ナルトビエイの来遊調査

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

○二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集

佐賀県

〔調査内容〕

ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲

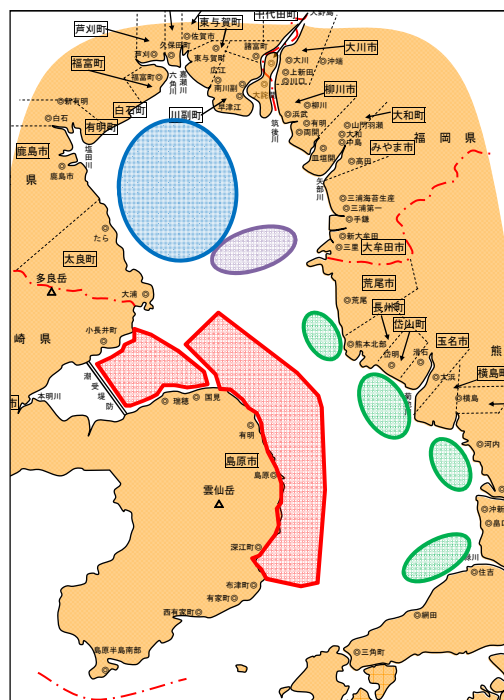
〔調査場所〕

佐賀県海域

〔調査時期〕

試料採取：4月～11月

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲

〔調査場所〕

福岡県海域

〔調査時期〕

試料採取：4月～11月

長崎県

〔調査内容〕

ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲

〔調査場所〕

長崎県海域

〔調査時期〕

試料採取：4月～11月

熊本県

〔調査内容〕

ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲

〔調査場所〕

熊本県海域

〔調査時期〕

試料採取：4月～11月

【福岡⑪】 施 策 名：ナルトビエイの来遊調査

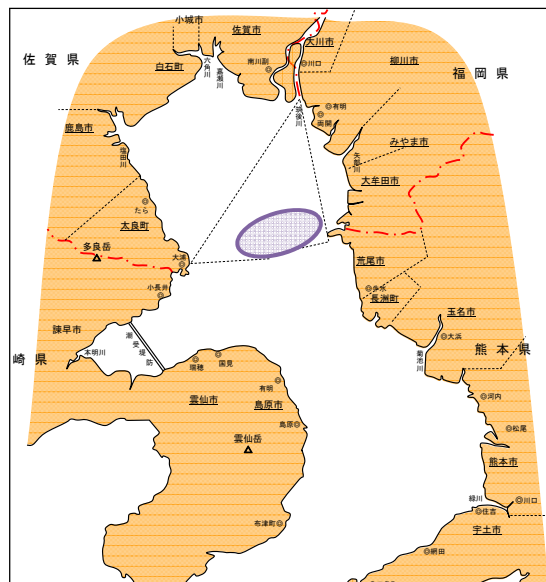
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

○二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	福岡県（九州農政局より委託）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
		〔調査内容〕 ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲 〔調査場所：福岡県海域〕 〔調査期間：4月～11月〕 〔調査状況（9月末時点）〕 捕獲重量：約35トン

【佐賀⑪】 施 策 名：ナルトビエイの来遊調査

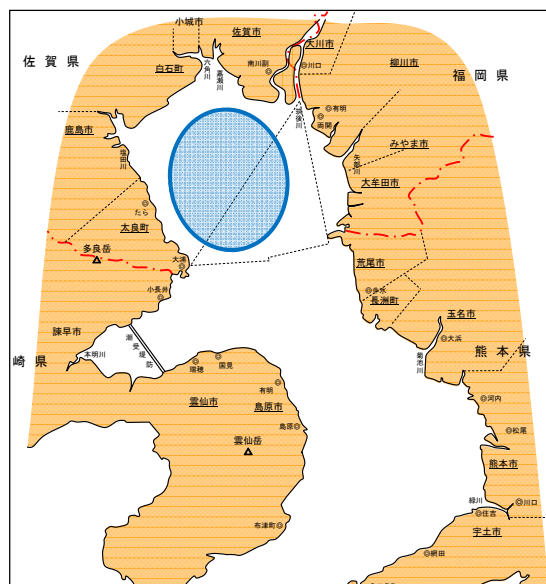
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

○二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	佐賀県（九州農政局より委託）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
		〔調査内容〕 ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲 〔調査場所：佐賀県海域〕 〔調査期間：4月～11月〕 〔調査状況（9月末時点）〕 捕獲重量：41トン

【長崎⑪】 施 策 名：ナルトビエイの来遊調査

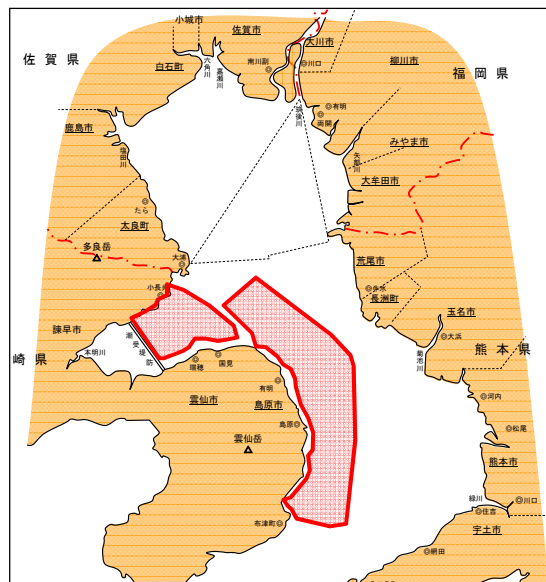
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

○二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	長崎県（九州農政局より委託）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
		〔調査内容〕 ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲 〔調査場所：長崎県海域〕 〔調査期間：4月～11月〕 〔調査状況（9月末時点）〕 捕獲重量：約0.1トン

【熊本⑪】 施 策 名：ナルトビエイの来遊調査

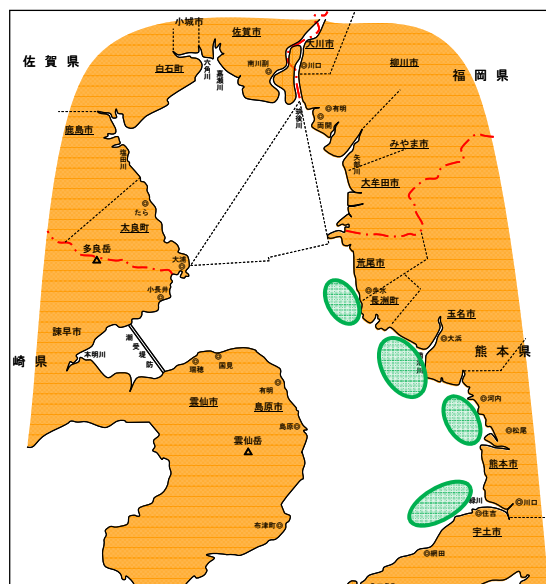
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

○二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	熊本県（九州農政局より委託）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
		〔調査内容〕 ナルトビエイ来遊調査観測機器回収のための捕獲 〔調査場所：熊本県海域〕 〔調査期間：4月～11月〕 〔調査状況（9月末時点）〕 捕獲重量：約15トン

⑫ナルトビエイの食害対策

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復のための有効な母貝場選定等の基礎資料

佐賀県

〔実施内容〕

ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分

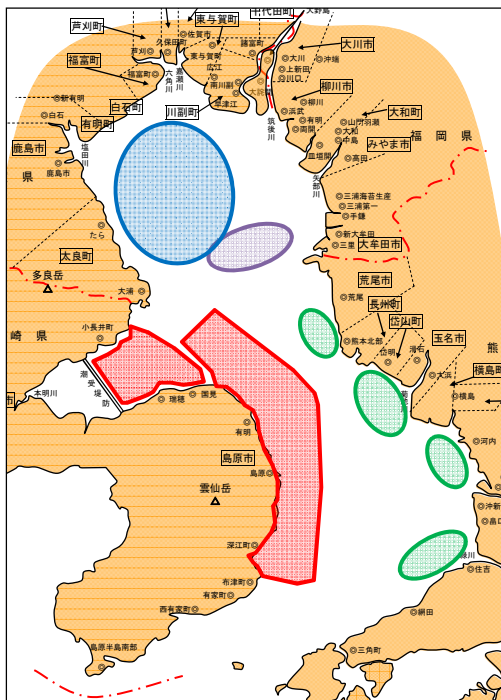
〔実施場所〕

佐賀県海域

〔実施時期〕

4月~10月

事業実施位置図



福岡県

〔実施内容〕

ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分

〔実施場所〕

福岡県海域

〔実施時期〕

4月~11月

長崎県

〔実施内容〕

ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分

〔実施場所〕

長崎県海域

〔実施時期〕

4月~12月

熊本県

〔実施内容〕

ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分

〔実施場所〕

熊本県海域

〔実施時期〕

4月~10月

【福岡⑫】 施 策 名：ナルトビエイの食害対策

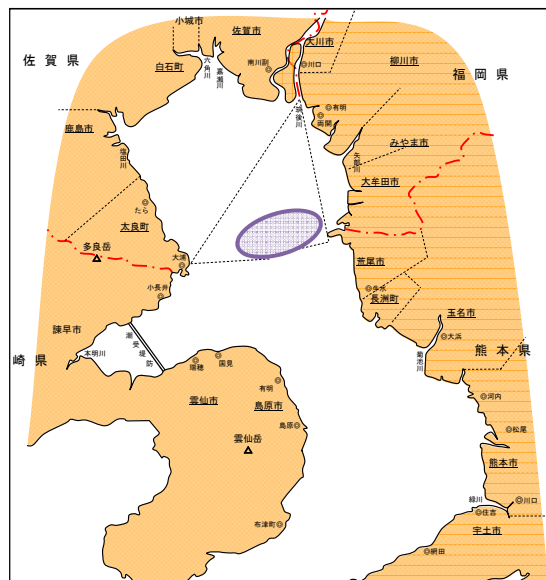
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

〔期待される効果〕

○ナルトビエイによる二枚貝類の食害被害を軽減



事業実施位置図



〔刺網による駆除作業〕

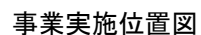


〔捕獲されたナルトビエイ〕

事業名	有明海漁場再生対策事業	
事業主体	福岡県（県単事業）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔実施内容〕 ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分（4月～11月） 〔実績〕 捕獲重量：約49トン	〔実施内容〕 同 左 〔実施状況（H30.9時点）〕 捕獲重量：約9トン

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

○ナルトビエイによる二枚貝類の食害被害を軽減



〔捕獲されたナルトビエイ〕

事業名	小規模漁場保全事業	
事業主体	佐賀県（県単事業）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔実施内容〕 ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分（4月～10月） 〔実績〕 捕獲重量：約47トン	〔実施内容〕 同 左 〔実施状況（H30.9時点）〕 捕獲重量：約10トン

【長崎⑫】 施策名：ナルトビエイの食害対策

〔アサリ〕

〔目的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

〔期待される効果〕

○ナルトビエイによる二枚貝類の食害被害を軽減



事業実施位置図



〔捕獲されたナルトビエイ〕

事業名	タイラギ漁業対策事業	
事業主体	長崎県（県単事業）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔実施内容〕 ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分（4月～12月） 〔実績〕 捕獲重量：約147.2トン	〔実施内容〕 同 左 〔実施状況（H30.9時点）〕 捕獲重量0.1トン

【熊本⑫】施 策 名：ナルトビエイの食害対策

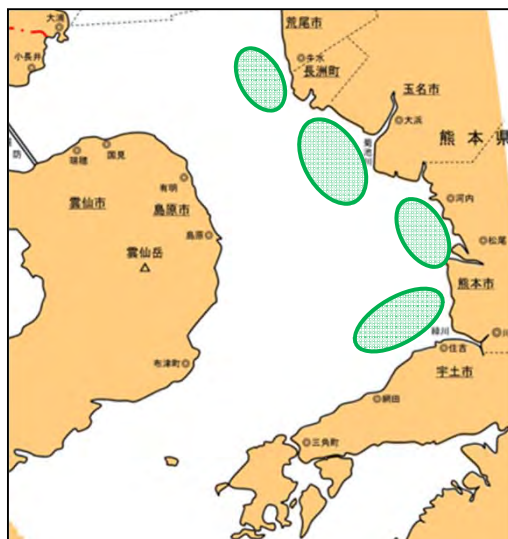
〔アサリ〕

〔目 的〕

○二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

〔期待される効果〕

○ナルトビエイによる二枚貝類の食害被害を軽減



事業実施位置図



〔捕獲されたナルトビエイ〕

事 業 名	ナルトビエイ駆除事業	
事 業 主 体	熊本県（県単事業）	
実 施 年 度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔実施内容〕 ナルトビエイを捕獲し、海域毎に尾数、体盤幅等を測定後に処分（4月～10月） 〔実績〕 捕獲重量：約50.9トン	〔実施内容〕 同 左 〔実施状況（H30.9時点）〕 捕獲重量約7.6トン

⑬浮遊幼生調査

〔目 的〕

○アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集

佐賀県

〔調査内容〕

浮遊幼生の試料採取
水質調査（水温、塩分、D0、クロロフィル
蛍光強度）

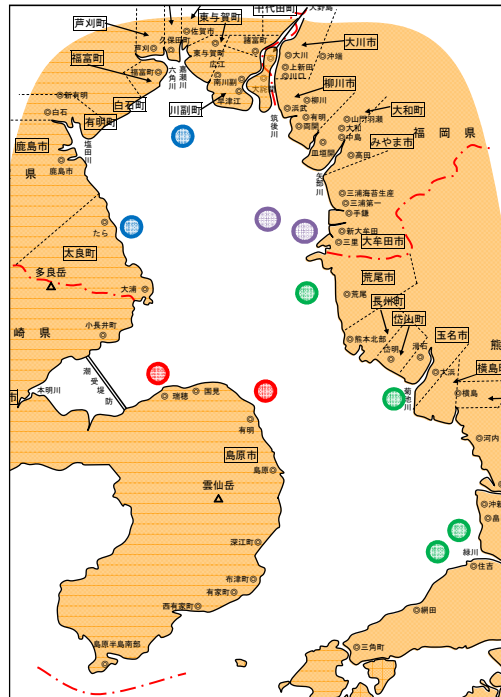
〔調査場所〕

佐賀市沖、太良町沖

〔調査数量〕

地 点 数：2 地点
試料採取：4 月（1 回/月）
5, 6, 9 月（3 回/月）
10, 11 月（4 回/月）
水質調査：同上

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

浮遊幼生の試料採取
水質調査（水温、塩分、D0、クロロフィル
蛍光強度）

〔調査場所〕

大牟田市沖、柳川市沖

〔調査数量〕

地 点 数：2 地点
試料採取：4 月（1 回/月）
5, 6, 9 月（3 回/月）
10, 11 月（4 回/月）
水質調査：同上

長崎県

〔調査内容〕

浮遊幼生の試料採取
水質調査（水温、塩分、D0、クロロフィル
蛍光強度）

〔調査場所〕

雲仙市瑞穂町沖、島原市有明町沖

〔調査数量〕

地 点 数：2 地点
試料採取：4 月（1 回/月）
5, 6, 9 月（3 回/月）
10, 11 月（4 回/月）
水質調査：同上

熊本県

〔調査内容〕

浮遊幼生の試料採取
水質調査（水温、塩分、D0、クロロフィル
蛍光強度）

〔調査場所〕

荒尾市沖、玉名市沖、緑川河口域

〔調査数量〕

地 点 数：4 地点
試料採取：4 月（1 回/月）
5, 6, 9 月（3 回/月）
10, 11 月（4 回/月）
水質調査：同上

【福岡⑬】 施策名:アサリの浮遊幼生調査

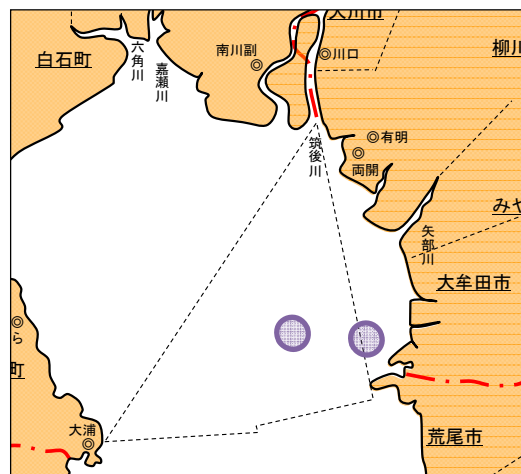
〔アサリ〕

〔目的〕

○アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集



事業実施位置図

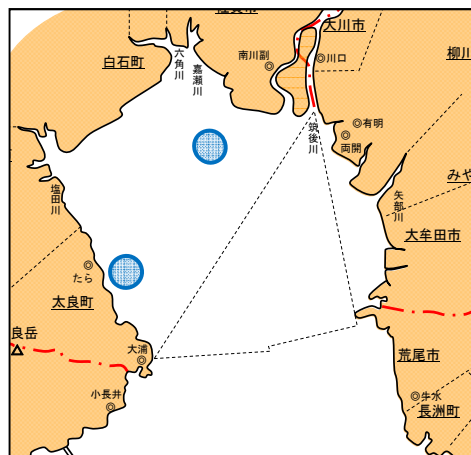
事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	福岡県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地点数:4地点 試料採取:4月(1回/月) 5, 6, 9月(3回/月) 10, 11月(4回/月) 水質調査:同上)	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地点数:2地点 試料採取:同左 水質調査:同左)
〔成果(有明海全体)〕	○浮遊幼生 ・D型幼生は、春季・秋季ともに有明海全域に広く分布し、特に有明海東側、諫早湾で多く発生 ・春季は秋季に比べてフルグロウン期幼生が多く、産卵後、D型幼生はフルグロウン期幼生まで順調に成長 ○着底稚貝 ・有明海東側、諫早湾の主要な漁場に着底 ・諫早湾では、秋季よりも春季の方が出現密度が高い	
	〔調査状況(有明海全体)(H30.10時点)〕 ・D型幼生は有明海全域で広域に分布し、特に有明海東側に多く出現しており、フルグロウン期幼生まで順調に成長 ・D型幼生及びフルグロウン期幼生とも平成28、29年度に比べて観測個体数が減少しているが、観測初期からフルグロウン期幼生が見られている	

〔目 的〕

○アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	佐賀県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地 点 数 : 5 地点 資料採取 : 4 月 (1 回 / 月) 5, 6, 9 月 (3 回 / 月) 10, 11 月 (4 回 / 月) 水質調査 : 同上)	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地 点 数 : 2 地点 資料採取 : 同左 水質調査 : 同左)
〔成果(有明海全体)〕	○浮遊幼生 ・D型幼生は、春季・秋季ともに有明海全域に広く分布し、特に有明海東側、諫早湾で多く発生 ・春季は秋季に比べてフルグロウン期幼生が多く、産卵後、D型幼生はフルグロウン期幼生まで順調に成長 ○着底稚貝 ・有明海東側、諫早湾の主要な漁場に着底 ・諫早湾では、秋季よりも春季の方が出現密度が高い	
	〔調査状況(有明海全体)(H30.10時点)〕 ・D型幼生は有明海全域で広域に分布し、特に有明海東側に多く出現しており、フルグロウン期幼生まで順調に成長 ・D型幼生及びフルグロウン期幼生とも平成28、29年度に比べて観測個体数が減少しているが、観測初期からフルグロウン期幼生が見られている	

【長崎⑬】 施 策 名 : アサリの浮遊幼生調査

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集



事業実施位置図

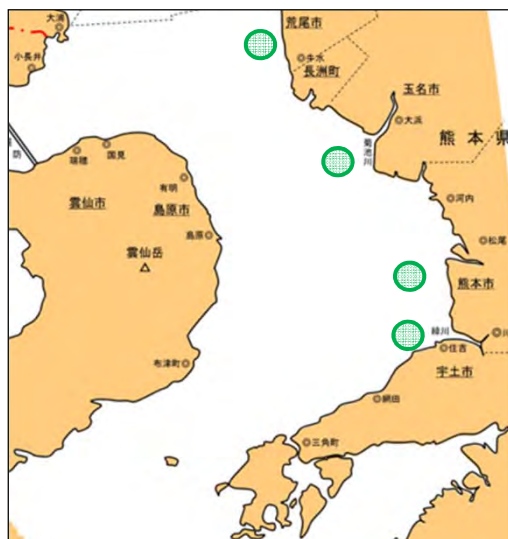
事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	長崎県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地点数:5地点 資料採取:4月(1回/月) 5, 6, 9月(3回/月) 10, 11月(4回/月) 水質調査:同上)	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) (地点数:2地点 資料採取:同左 水質調査:同左)
〔成果(有明海全体)〕	○浮遊幼生 ・D型幼生は、春季・秋季ともに有明海全域に広く分布し、特に有明海東側、諫早湾で多く発生 ・春季は秋季に比べてフルグロウン期幼生が多く、産卵後、D型幼生はフルグロウン期幼生まで順調に成長 ○着底稚貝 ・有明海東側、諫早湾の主要な漁場に着底 ・諫早湾では、秋季よりも春季の方が出現密度が高い	〔調査状況(有明海全体)(H30.10時点)〕 ・D型幼生は有明海全域で広域に分布し、特に有明海東側に多く出現しており、フルグロウン期幼生まで順調に成長 ・D型幼生及びフルグロウン期幼生とも平成28、29年度に比べて観測個体数が減少しているが、観測初期からフルグロウン期幼生が見られている

〔目 的〕

○アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

○アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	熊本県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) 〔地点数:4地点 資料採取:6月～9月(3回/月) 水質調査:同上〕	・浮遊幼生の試料採取 ・水質調査(鉛直測定:水温、塩分、D0、クロロフィル蛍光強度) 〔地点数:4地点 資料採取:5月,6月,9月(3回/月) 10月,11月(4回/月) 水質調査:同左〕
〔成果(有明海全体)〕	○浮遊幼生 ・D型幼生は、春季・秋季ともに有明海全域に広く分布し、特に有明海東側、諫早湾で多く発生 ・春季は秋季に比べてフルグロウン期幼生が多く、産卵後、D型幼生はフルグロウン期幼生まで順調に成長 ○着底稚貝 ・有明海東側、諫早湾の主要な漁場に着底 ・諫早湾では、秋季よりも春季の方が出現密度が高い	〔調査状況(有明海全体)(H30.10時点)〕 ・D型幼生は有明海全域で広域に分布し、特に有明海東側に多く出現しており、フルグロウン期幼生まで順調に成長 ・D型幼生及びフルグロウン期幼生とも平成28、29年度に比べて観測個体数が減少しているが、観測初期からフルグロウン期幼生が見られている

⑭稚貝保護・育成(実証)

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ稚貝から成貝までの保護、育成実証

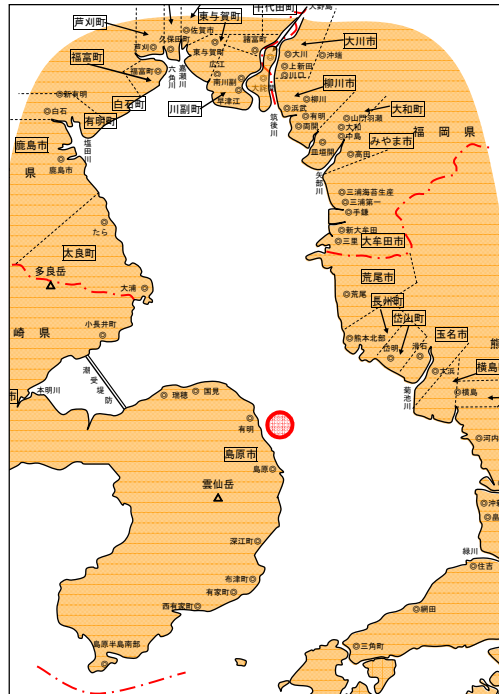
〔期待される効果〕

○礫浜での稚貝から母貝までのサイクルの開発

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

長崎県

〔実施内容〕

稚貝の採取試験等

基質入り網袋の設置場所、設置時期の検討、移植用のアサリ増産に適した収容密度の検討等

〔実施場所〕

長崎県島原市

熊本県

○該当なし

【長崎⑭】 施策名：アサリ稚貝を中心とした技術開発・実証（長崎県島原市）

〔目的〕

○アサリの稚貝から成貝までの保護、育成の実証

〔期待される効果〕

○浮遊幼生が着底するが（十分に）着生しない礫浜での稚貝から母貝までのサイクルの開発



事業実施位置図

事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事業主体	民間団体等（水産庁より委託）
実施年度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 稚貝の採取試験等 基質入り網袋の設置場所、設置時期の検討、移殖用のアサリ増産に適した収容密度の検討等 〔実施場所〕 長崎県島原市	
5月設置区 9月設置区 対照区 （砂利入り）網袋 大きさ：30×50cm 目合：4mm 砂利：5mm 程度、約7kg 充填	

⑮稚貝移植(実証)

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移植

〔期待される効果〕

- 着生域、稚貝生息域の拡大のための移植手法の開発
- 県内他地域からの搬入稚貝と現地での採取稚貝を併用した移植手法の開発
- 湾奥域での高密度着生・集積域の拡大手法の開発
- 高密度着生・集積域での移植手法の開発
- 移植による漁獲量の増加

佐賀県

〔実施内容〕

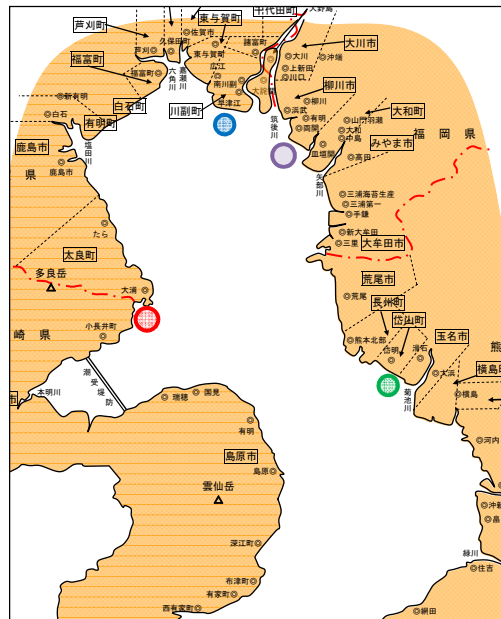
アサリ移植実験等

小規模覆砂による底質改善と高密度着生域の
原地盤で採取した稚貝を移植及び被覆し、その効果の検討等

〔実施場所〕

佐賀県佐賀市

事業実施位置図



福岡県

〔実施内容〕

採苗基質実験等

効率的な稚貝確保のための採苗基質の検討等

〔実施場所〕

福岡県柳川市

長崎県

〔実施内容〕

稚貝の採取実験等

効果的な採苗器の設置場所、設置時期の検討等

〔実施場所〕

長崎県諫早市

熊本県

〔実施内容〕

稚貝の採取実験等

ボトル型容器を用いた稚貝の確保と成長段階毎の
移植方法の検討等

〔実施場所〕

熊本県玉名市

〔目的〕

○アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移殖

〔期待される効果〕

○湾奥域での高密度着生・集積域の拡大手法の開発

○移殖による漁獲量の増加



事業実施位置図

事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事業主体	民間団体等（水産庁より委託）
実施年度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 採苗基質実験等 効率的な稚貝確保のための採苗基質の検討等 〔実施場所〕 福岡県柳川市	
■ クラムベレット + 18mm目合網袋 6月：30個設置 (次年度分 18個残置) ■ 軽石 + 8mm目合網袋 6月：30個設置 (次年度分 18個残置) 対照区 (原地盤)  分級軽石+8mm目合網袋  クラムベレット+18mm目合網袋 高密度着生域	

〔目 的〕

○アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移殖

〔期待される効果〕

○着生域、稚貝生息域の拡大のための移殖手法の開発

○移殖による漁獲量の増加

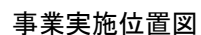


事業実施位置図

事 業 名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事 業 主 体	民間団体等(水産庁より委託)
実 施 年 度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 アサリ移殖実験等 小規模覆砂による底質改善と高密度着生域の原地盤で採取した稚貝を移殖及び被覆し、その効果の検討等 〔実施場所〕 佐賀県佐賀市	
覆砂区 (8月設置) 被覆網 アサリ地撒 500個体/m² 被覆網 アサリ地撒 2000個体/m² 覆砂無 (8月設置) 被覆網 アサリ地撒 500個体/m² 被覆網 アサリ地撒 2000個体/m² 泥 場 高密度着生域	

○アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移殖

- 県内他地域からの搬入稚貝と現地での採取稚貝を併用した移殖手法の開発
- 移殖による漁獲量の増加



事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事業主体	民間団体等(水産庁より委託)
実施年度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 稚貝の採取実験等 効果的な採苗器の設置場所、設置時期の検討等 〔実施場所〕 長崎県諫早市	
〔実施内容〕 稚貝の採取実験等 効果的な採苗器の設置場所、設置時期の検討等 〔実施場所〕 長崎県諫早市 （砂利入り）網袋 クラムマット 大きき：30×50cm 目合：4mm 砂利：5mm 程度、約5kg 充填 大きき：60×50cm 目合：9mm クラムシェル：15mm（球形） 約3kg充填	

〔目的〕

○アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移殖

〔期待される効果〕

○高密度着生・集積域での移殖手法の開発

○移殖による漁獲量の増加



事業実施位置図

事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事業主体	民間団体等（水産庁より委託）
実施年度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 稚貝の採取実験等 ボトル型容器を用いた稚貝の確保と成長段階毎の移殖方法の検討等 〔実施場所〕 熊本県玉名市	
ボトル型容器を用いてアサリの浮遊幼生を確保（採苗） 基質：網地 基質：購入砂 ボトル（容量2L程度のクリア瓶等）に、 削孔（3mm程度を多数）、 基質（網地、購入砂）を封入 移殖貝の採取 試験ケース：穴あけボトル/網地 移殖貝の採取 試験ケース：穴あけボトル/購入砂	

⑩母貝生息適地造成(実証)

〔目 的〕

○高地盤覆砂域の造成等による母貝生育適地の造成

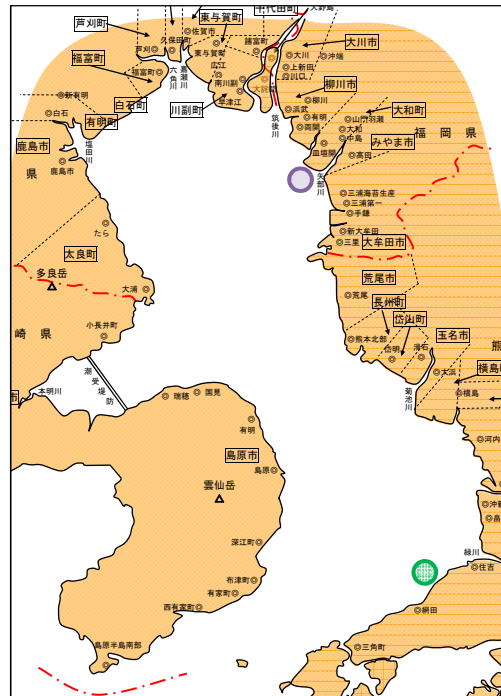
〔期待される効果〕

○砂泥干潟での母貝の育成、採苗からの産卵サイクルの開発

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

カゴ飼育実験等
離底型連続カゴ、設置高、基質(軽石、アンスラ
サイト)の違いによる生残・成長の検討等

〔調査場所〕

福岡県柳川市

長崎県

○該当なし

熊本県

〔調査内容〕

母貝の生残率向上実験等
底質改善(小規模高地盤覆砂及び礫散布)と被
覆網を組合せた母貝の保護の検討等

〔調査場所〕

熊本県宇土市

【福岡⑬】 施 策 名：アサリ母貝を中心とした技術開発・実証（福岡県柳川市）

〔アサリ〕

〔目 的〕

○高地盤覆砂域の造成等による母貝生育適地の造成

〔期待される効果〕

○泥干潟での母貝の育成、採苗からの産卵サイクルの開発



事業実施位置図



泥干潟

事 業 名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事 業 主 体	民間団体等（水産庁より委託）
実 施 年 度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 カゴ飼育実験等 離底型連続カゴ、設置高、基質（軽石、アンスラサイト）の違いによる生残・成長の検討等 〔実施場所〕 福岡県柳川市	
原地盤に埋設	
離底型連続カゴ (設置高0cm)	
離底型連続カゴ (設置高10cm)	
カゴに收容した基質 入り網袋	

【熊本⑬】 施策名：アサリ母貝を中心とした技術開発・実証（熊本県宇土市）

〔目 的〕

○高地盤覆砂域の造成等による母貝生育適地の造成

〔期待される効果〕

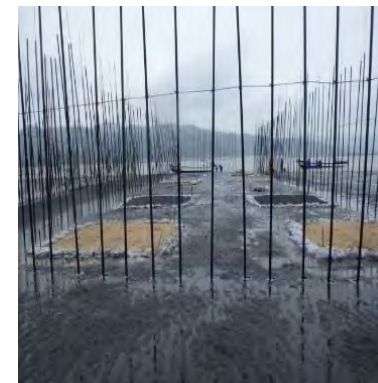
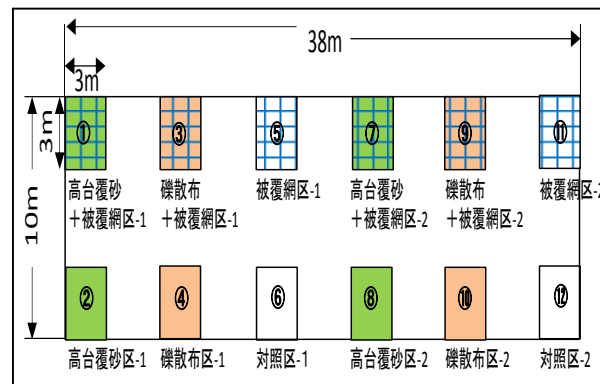
○砂泥干潟での母貝の育成、採苗からの産卵サイクルの開発



事業実施位置図



事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業
事業主体	民間団体等（水産庁より委託）
実施年度	H30～34年度
H30年度	
〔実施内容〕 母貝の生残率向上実験等 底質改善（小規模高地盤覆砂及び礫散布）と被覆網を組合せた母貝の保護の検討等	
〔実施場所〕 熊本県宇土市	



⑰カキ礁造成による貧酸素水塊軽減(実証)

〔目 的〕

○カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減

〔期待される効果〕

○カキ礁造成のための方法及びカキ礁による貧酸素水塊の軽減効果に係る数値解析手法の開発

佐賀県

〔実施内容〕

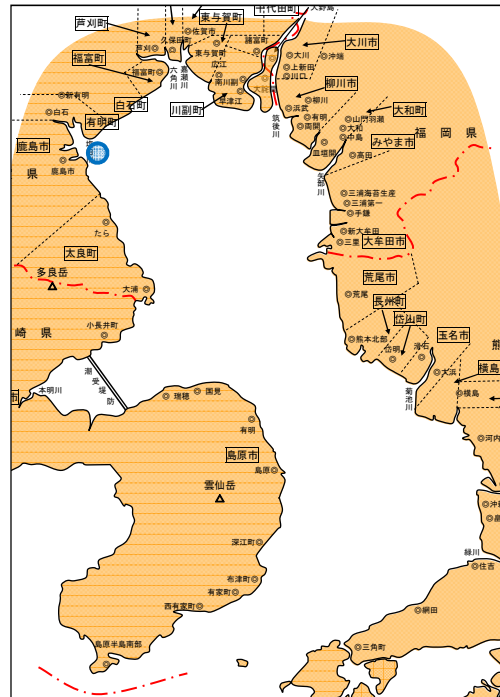
カキ礁造成方法の実験等

- ・カキ礁造成のための着生材の設置
- ・着生生物の調査・カキ礁造成に伴う流速への影響検討
- ・物質循環モデルの検討

〔実施場所〕

佐賀県鹿島市

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

長崎県

○該当なし

熊本県

○該当なし

【佐賀⑰】 施策名：貧酸素水塊軽減(佐賀県鹿島市)

〔目的〕

○カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減

〔期待される効果〕

○カキ礁造成のための方法及びカキ礁による貧酸素水塊の軽減効果に係る数値解析手法の開発



事業実施位置図

事業名	有明海のアサリ等の生産性向上実証事業								
事業主体	民間団体等(水産庁より委託)								
実施年度	H30～34年度								
H30年度									
〔実施内容〕 - カキ礁造成方法の実験等 ・カキ礁造成のための着生材の設置 ・着生生物の調査・カキ礁造成に伴う流速への影響検討 ・物質循環モデルの検討 佐賀県鹿島市									
竹ぼうき <table border="1"> <thead> <tr> <th>区域名</th><th>使用する竹</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸竹区</td><td>真竹の丸竹(φ5cm前後)</td></tr> <tr> <td>半竹区</td><td>真竹の半竹(丸竹半割)</td></tr> <tr> <td>女竹区</td><td>女竹(φ2cm前後)</td></tr> </tbody> </table> 長さ 1.4m 底面直径 0.7m 竹ぼうきは約0.8m(柄)、丸竹と半竹は0.3m、女竹は0.8m程度埋め込む		区域名	使用する竹	丸竹区	真竹の丸竹(φ5cm前後)	半竹区	真竹の半竹(丸竹半割)	女竹区	女竹(φ2cm前後)
区域名	使用する竹								
丸竹区	真竹の丸竹(φ5cm前後)								
半竹区	真竹の半竹(丸竹半割)								
女竹区	女竹(φ2cm前後)								